（１）　茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 炭疽病 *Discula theae-sinensis*	1.耐病性品種を栽植する。 2.窒素質肥料の過用を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.多発生が予想される時は萌芽期と１～２葉開葉期の２回散布が必要であるので、残臭期間に注意して使用薬剤を決める。 2.アミスター２０フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル２５は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8月下旬 ～9月中旬 (秋芽開葉期)	1 1 3 3 3 3 3 11 11 11 11 M1 M1 M1 M5 29	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 トリフミン水和剤 インダーフロアブル オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 マネージ DF アミスター２０フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル フリントフロアブル２５ コサイド３０００ ドイツボルドーA Zボルドー ダコニール１０００ フロンサイド SC
		最終摘採後	M1	IC ボルドー６６D
2 網もち病 *Exobasidium reticulatum*	1.多肥栽培を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.主要発生時期は秋期であるので、三番茶を摘採する園では秋芽の萌芽から開葉期にかけて薬剤散布する。なお、三番茶を摘採しない園では三番茶の萌芽から開葉期にかけて薬剤散布をする。	7月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8月下旬 ～9月中旬 (秋芽開葉期)	3 11 29 M1 M1 M1 M1 M5	オンリーワンフロアブル スクレアフロアブル フロンサイド SC コサイド３０００ ドイツボルドーA Zボルドー フジドーLフロアブル ダコニール１０００
3 もち病 *Exobasidium vexans*	1.茶園の中や周囲にある日照ををさえぎるものは、できるだけ少なくする。 2.山間地で発生が多い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.多発生が予想される時は萌芽期と１～２葉開葉期の２回散布が必要であるので、残臭期間に注意して使用薬剤を決める。 2.アミスター２０フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル２５は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7月中下旬 (三番茶芽開葉期) 8月下旬 ～9月中旬 (秋芽開葉期)	3 3 3 3 11 11 11 11 29 M1 M1 M1 M1 M5	トリフミン水和剤 オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 マネージ水和剤 アミスター２０フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル フリントフロアブル２５ フロンサイド SC コサイド３０００ ドイツボルドーA Zボルドー フジドーLフロアブル ダコニール１０００
4 輪斑病 *Pestalotiopsis longiseta* *P. theae* *Neopestalotiopsis* spp.	1.耐病性品種（めいりょく等）を栽植する。 2.多発園においては三番茶の摘採を中止する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.病原菌は、摘採などによって生じた葉や茎の傷口から侵入するので、トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は摘採後３日までに、ダコニール１０００は摘採当日に使用する。 2.アミスター２０フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル２５は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	6月下旬 ～7月上旬 (二番茶摘採直後) 7月下旬 ～8月上旬 (三番茶摘採直後)	1 1 11 11 11 11 11 29 M5 10･1 24･M1 24･M1	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 アミスター２０フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フリントフロアブル２５ フロンサイド SC ダコニール１０００ (混)ニマイバー水和剤 (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
5 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.夏場干ばつ時には潅水を行う。 2.夏から秋にかけて肥料分の極端な過不足をなくす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.菌が花を介して葉や芽に感染する。 2.開花期に雨が多いと発生しやすい。	11～12月 (開花期)	29 M5	フロンサイド SC ダコニール１０００

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
6 新梢枯死症 （輪斑病 *Pestalotiopsis longiseta*）	1.耐病性品種（めいりょく等）を栽植する。 2.多発園においては三番茶の摘採を中止する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.輪斑病菌により発生する。 2.アミスター２０フロアブル、スクレアフロアブル、ストロビーフロアブル、フリントフロアブル２５は、浸透性を高める展着剤を加用すると薬害のおそれがあるので注意する。	６月上中旬 (二番茶芽開葉期) ７月中下旬 (三番茶芽開葉期) ８月下旬 ～９月中旬 (秋芽開葉期)	3 11 11 11 11 11 29 M1 M1 M5 10･1 24･M1 24･M1	オンリーワンフロアブル アミスター２０フロアブル スクレアフロアブル ストロビーフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フリントフロアブル２５ フロンサイドＳＣ コサイド３０００ フジドーＬフロアブル ダコニール１０００ (混)ニマイバー水和剤 (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
7 褐色円星病 *Pseudocercospora ocellata* *Cercospora chaae*	1.樹勢を衰弱させないように肥培管理に注意する。 2.排水を良好にする。	７月中下旬 ８月下旬 ～９月中旬	1 1 3 3 3 11 11 29 M1 M5 10･1 24･M1 24･M1	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 マネージ水和剤 フリントフロアブル２５ ファンタジスタ顆粒水和剤 フロンサイドＳＣ コサイド３０００ ダコニール１０００ (混)ニマイバー水和剤 (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
8 赤焼病 *Pseudomonas syringae* pv. *theae*	1.強風を伴う降雨後に感染しやすいため、常発地や幼木園では防風ネットを設置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.感染時期は10～11月及び２～３月で、潜伏期間は20～30日なので、越冬病斑の多い園では２月中下旬と３月上中旬の２回、薬剤散布する。	２月下旬 ～３月中旬	M1 M1 M1 M1 M1 M1 24･M1 24･M1	コサイド３０００ ドイツボルドーＡ Ｚボルドー ムッシュボルドーＤＦ ＩＣボルドー６６Ｄ フジドーＬフロアブル (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
9 白紋羽病 *Rosellinia necatrix*	1.被害株を除去し、処分する。			
10 芽枯れ症 （銅欠乏症）	1.粗粒質の花崗岩土壌へ堆肥などを多量に投入すると発生しやすい。 2.多発茶園では、炭疽病等の病害防除を兼ねて銅水和剤の散布を年１回以上は心がける。			
11 カンザワハダニ	1.凍霜害後に多発するので、凍霜害防止に努める。 2.新芽に発生が見られたら早めに摘採する。 3.干ばつ条件下で多発しやすいため、灌水を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発生初期の低密度期に十分量の散布を行い、徹底した防除をする。 2.使用薬剤の選定には、特に茶芽の状態と残臭期間に注意し、同一薬剤を連用しない。 3.コテツフロアブル、サンクリスタル乳剤、ミルベノック乳剤、アグリメック、サンマイトフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダブルフェースフロアブルは、チャノナガサビダニにも登録がある。 4.バロックフロアブルは、５月下旬～９月上旬にも使用できる。 5.コテツフロアブル、ミルベノック乳剤、アグリメック、ダニトロンフロアブル、サンマイトフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダブルフェースフロアブルは、チャノホコリダニにも登録がある。 6.コテツフロアブル、アグリメック、ダニトロンフロアブル、ピラニカＥＷ、サンマイトフロアブルはチャノミドリヒメヨコバイにも登録がある。 7.ピラニカＥＷは、３月中旬～下旬の低温期にも効果がある。ただし、残効性に欠ける。 8.サンクリスタル乳剤、ミルベノック乳剤、ダニトロンフロアブルはチャノホソガにも登録がある。 9.トモノールＳ（マシン油乳剤）は、摘採前４週間は使用しない。また、成葉に油が残ることから、摘採時に成葉が混入しないようにやや浅摘みをする。	11月中旬 ３月中下旬 (一番茶萌芽前) ４月上旬 ～５月上旬 (一番茶芽 生育期) ５月中旬 (一番茶摘採後) ７月上中旬 (二番茶摘採後) ９月上旬 (秋芽開葉期) ５月～９月 冬期	10B 13 － － 6 6 21A 21A 21A 23 25A 25B 25B･21A UNM UN	バロックフロアブル コテツフロアブル 粘着くん液剤 サンクリスタル乳剤 ミルベノック乳剤 アグリメック ダニトロンフロアブル ピラニカＥＷ サンマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニサラバフロアブル ダニコングフロアブル ダブルフェースフロアブル トモノールＳ 石灰硫黄合剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
12 チャノホソガ （チャノサンカクハマキ）	1.被害葉が見られ始めたら早めに摘採し、幼虫の除去に努める。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.薬剤散布の時期が茶芽の開葉期に当たるので、残臭期間に注意し、使用薬剤を選定する。	４月下旬 ～５月上旬 (一番茶芽生育期) ６月上中旬 (二番茶芽生育期) ７月中下旬 (三番茶芽生育期) ９月上中旬 (秋芽開葉期)	1B 2B 4A 4A 4A 5 6 6 11A 11A 11A 14 15 15 15 15 18 18 18 28 28 28 28 34 34 4A･15 21A･16	カルホス乳剤 キラップフロアブル モスピランＳＬ液剤 モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 ディアナＳＣ アファーム乳剤 アグリメック エスマルクＤＦ バシレックス水和剤 サブリナフロアブル パダンＳＧ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 マッチ乳剤 カスケード乳剤 マトリックフロアブル ファルコンフロアブル ロムダンフロアブル フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル サムコルフロアブル１０ ヨーバルフロアブル ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル (混)リーズン顆粒水和剤 (混)アプロードエースフロアブル
13 チャノコカクモンハマキ チャハマキ	1.三番茶不摘採園では発生が多くなるので、樹勢の強い園では、三番茶を摘採する。なお樹勢の弱い園では、摘採しない。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.防除は、第２世代幼虫期に当たる７月上中旬と第３世代幼虫期に当たる８月中下旬を重点にする。 2.ハマキコン-Nの注意事項 ・越冬世代成虫発生初期（３月中旬）に設置する。 ・ディスペンサーは10ａ当たり150～250本とし、ほぼ８割程度を均等に設置し、残り２割程度を周辺に処理する。 ・摘採面下10㎝位の位置に設置して、2.2～2.4m間隔で取り付ける。 ・Ⅲ－25．フェロモン剤についての項参照。	５月中旬 (一番茶摘採後) ７月上中旬 (二番茶摘採後) ８月中下旬 (三番茶摘採後) ９月下旬 ～10月上旬 (秋芽生育期) ３月中旬 ～９月中旬	1B 5 5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 15 15 15 18 18 18 28 28 28 28 4A･15 -(フェ)	トクチオン乳剤 スピノエースフロアブル ディアナＳＣ アファーム乳剤 アグリメック エスマルクＤＦ サブリナフロアブル ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 バシレックス水和剤 チューンアップ顆粒水和剤 マッチ乳剤 カスケード乳剤 アタブロン乳剤 ロムダンフロアブル マトリックフロアブル ファルコンフロアブル フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル サムコルフロアブル１０ ヨーバルフロアブル (混)リーズン顆粒水和剤 ハマキコン－Ｎ
14 チャノミドリヒメヨコバイ	1.摘採間近になって幼虫の発生が増加してきた場合は早めに摘採し、虫を除去する。 2.摘採後の雨落ち部に残る遅れ芽などは成虫の産卵場所になるので、早めに裾刈りを行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.チャノミドリヒメヨコバイは一番茶摘採後から10月中旬ごろまで間断なく発生がみられるが、特に二、三番茶の開葉期と秋芽に発生が多いので、この時期に防除する。 2.アプロード水和剤は幼虫に登録がある。	６月上中旬 (二番茶芽開葉期) ７月中下旬 (三番茶芽開葉期) ９月上中旬 (秋芽開葉期)	1B 1B 4A 4A 4A 4A 4A 9B 13 14 15 16	オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤 アドマイヤー水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル パダンＳＧ水溶剤 カスケード乳剤 アプロード水和剤

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			21A	ピラニカEW
			4A･15	(混)リーズン顆粒水和剤
			21A･16	(混)アプロードエースフロアブル
15 チャノキイロアザミウマ	1.夏から秋にかけての整枝や肥培管理により、秋芽の伸長を止め、硬化を早める。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.チャノキイロアザミウマの防除は、チャノミドリヒメヨコバイにも登録のある薬剤を用いて同時防除とする。 2.アドマイヤー水和剤はチャノホソガにも登録がある。 3.コルト顆粒水和剤はかけむらがないよう、特に注意する。また、食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	6月上中旬 (二番茶芽開葉期) 7月中下旬 (三番茶芽開葉期) 9月上中旬 (秋芽開葉期)	1B 1B 1B 2B 4A 4A 4A 4A 4A 5 5 6 6 9B 13 14 15 15 21A 21A 34 34 4A･15	オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤 トクチオン乳剤 キラップフロアブル アドマイヤー水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 スピノエースフロアブル ディアナSC アファーム乳剤 アグリメック コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル パダンSG水溶剤 マッチ乳剤 カスケード乳剤 ハチハチ乳剤 ハチハチフロアブル ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル (混)リーズン顆粒水和剤
16 ツマグロアオカスミカメ	1.茶園周辺の中間寄主植物（アレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ）を８月下旬～９月上旬に除去し、成虫の発生源を断つ。	4月上中旬 (一番茶萌芽期～開葉期) 6月上中旬 (二番茶芽開葉期)	1B 2B 4A 4A 9B	スミチオン乳剤70 キラップフロアブル アルバリン顆粒水溶剤 スターク顆粒水溶剤 コルト顆粒水和剤
17 コミカンアブラムシ	1.茶園内が多湿にならないよう、除草などに努める。	4月下旬 ～5月上旬 (一番茶芽生育期) 6月中下旬 (二番茶芽 生育期)	4A 4A	モスピランSL液剤 ダントツ水溶剤
18 クワシロカイガラムシ	1.敷草は、十分に乾燥させた後、茶園に持ち込む。 2.苗木は寄生の有無を確認し、寄生苗は処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.防除は幼虫ふ化期に行い、薬液が枝幹に十分にかかるように散布する。 2.５月中下旬の第１世代幼虫はふ化が比較的斉一なので、防除効果が高い。 3.アプロード水和剤、アプロードフロアブルはクワシロカイガムシ若齢幼虫に登録がある。 4.マシン油乳剤（アタックオイル、スピンドロン乳剤、スプレーオイル、トモノールS、ハーベストオイル）は寒干害防止に効果がある。ただし、冬期使用については、「赤焼病」を助長することがあるため、発生しやすい幼木や２月に常発する園は散布しない。また、成園で２月に「赤焼病」が発生みられる場合は、銅剤を散布する。なお、この場合薬害回避のため、１ヶ月以上散布間隔を空ける。	5月中下旬 (一番茶摘採後) 7月中下旬 (三番茶芽 開葉期) 9月中下旬 (秋芽生育期)	9B 16 16 21A 21A･16	コルト顆粒水和剤 アプローチ水和剤 アプロードフロアブル ダニトロンフロアブル (混)アプロードエースフロアブル
		最終摘採後 ～冬期	1B UNM UNM UNM UNM UNM	エルサン乳剤 アタックオイル スピンドロン乳剤 スプレーオイル トモノールS ハーベストオイル

茶

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
19 チャトゲコナジラミ	1.深刈り剪枝等で、寄生葉を除去し埋没する **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.若齢幼虫期の防除に努める。 2.すそに寄生が多いので、重点的に散布する。〃 3.コルト顆粒水和剤はかけむらがないよう、特に注意する。また、食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。 4.春季～秋期のマシン油乳剤（アタックオイル、トモノールＳ）は、摘採前４週間は使用しない。また、高温時の散布は避ける。 5.マシン油乳剤の冬期使用は、クワシロカイガラムシの項を参照。	６月上旬 (一番茶摘採後) ８月上旬 (二番茶摘採後) ９月下旬～ １０月上旬 (秋芽生育期)	4A 5 9B 13 16 23 21A 21A 21A・16	ダントツ水溶剤 ディアナＳＣ コルト顆粒水和剤 コテツフロアブル アプロード水和剤 ダニゲッターフロアブル ハチハチ乳剤 ハチハチフロアブル (混)アプロードエースフロアブル
		春季～秋期	UNM UNM	アタックオイル トモノールＳ
		冬期	UNM UNM UNM	アタックオイル スプレーオイル トモノールＳ
20 ヨモギエダシャク （シャクトリムシ）	1.成虫は、茶園周辺の樹木の樹皮下や建物のすき間にかためて産卵するので、圃場周辺の環境を整理する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発生初期の若齢幼虫期の防除に努める。 2.フェニックス顆粒水和剤はかけむらがないよう、特に注意する。また、食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	９月下旬 ～10月上旬 (秋芽生育期)	5 5 6 11A 11A 11A 11A 15 15 15 15 18 18 18 28 28 28	スピノエースフロアブル ディアナＳＣ アファーム乳剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 トアロー水和剤ＣＴ バシレックス水和剤 ノーモルト乳剤 マッチ乳剤 カスケード乳剤 アタブロン乳剤 ロムダンフロアブル マトリックフロアブル ファルコンフロアブル フェニックス顆粒水和剤 サムコルフロアブル１０ ヨーバルフロアブル
21 土壌線虫 チャネグサレセンチュウ	1.土壌の物理性をよくする。 2.排水をよくする。 3.化学肥料にかたよらず、堆肥を多く施す。 4.多肥を控え、健全な細根を育てる。 5.適宜、深耕や中切りを行い、樹勢の回復を図る。			